

# い k i i k i LIFE エイジングマガジン みやぎ



2016年9月20日発行

発行 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会  
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目2-3  
TEL.022-223-1171 FAX.022-223-1151  
ホームページ http://www.miyagi-sfk.net/  
(※トップページの「広報」で紙面を閲覧できます)

企画編集 河北新報社  
協力 宮城河北会

### INDEX

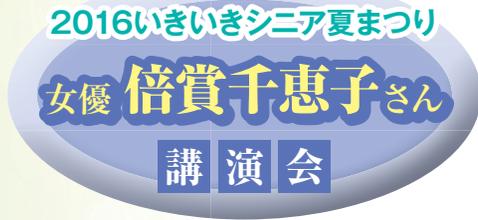
- 3 倍賞千恵子さん講演会
- 4-5 ねんりんピック「選手にインタビュー」
- 6 足元ランニング体操
- 7 イベント&トピックス/お好みシネマ缶
- 9 ピックアップ
- 10 宮城いきいき便り
- 11 いきいきSUNクラブnews
- 12 SUNSUNTライ/短歌/俳句/川柳
- 13 いきいきサロン
- 14 Q&A



「下町の太陽」や「さくらのバラード」などをアカペラで披露するたびに、会場から拍手が湧いた

## 進化し続ける 役者人生を

### 映画「男はつらいよ」終了から20年



一般的に私は女優で通っていますが、芸能界のデビューは歌手が先でした。子どもの頃、歌が好きで姉に連れられてラジオの「NHKのど自慢大会」に一緒に出たのがきっかけ。姉が「カンカンカン」って鐘を三つ鳴らし、レコード会社の方に誘われるがまま入ったのが、「みずみず児童合唱団」です。習い事感覚で楽しく歌っていました。中学卒業後は松竹音楽舞踊学校に入学。3年間で日本舞踊やクラシックバレエなどいろいろと教わりました。特に、あいさつといった社会人としての基礎をたたき込まれたことは、将来とても役に立ちました。卒業を控え、映画「斑女」でのデビューが決まりました。

女優、歌手として活躍する倍賞千恵子さんが7月29日、仙台市内で開かれた「2016いきいきシニア夏まつり」(主催/宮城県社会福祉協議会 いきいきSUNクラブ)で「歌うこと、演じること、そして生きること」と題して講演。長い芸能生活の中での経験や出会いなどを、時にはセリフを混ぜ、時にはアカペラを披露し、楽しく話した。

### ヒット曲で 運命の出会い

歌手の活動では「下町の太陽」がヒットし、映画化されました。その脚本と監督をされたのが、映画「男はつらいよ」の山田洋次監督です。監督との初めてのお仕事でした。「下町の太陽」はとてもキーの高い曲。年齢を重ねると昔のような歌い方ができなくなり、歌わない時期もありました。映画が上映されて歌がまたヒットし、コンサートを開催することになったんです。自分のヒット



3階席まで観客で埋まった

### profile

倍賞千恵子 75歳

1941年6月、東京都出身。松竹音楽舞踊学校を首席で卒業後、松竹歌劇団(SKD)へ入団。61年に松竹にスカウトされ、松竹映画「斑女」に出演。歌手としても活動し、「下町の太陽」でレコード大賞新人賞を受賞。69年映画部門で4人目の芸術選奨文部大臣賞を受賞。日本アカデミー賞、毎日映画コンクール、キネマ旬報など各賞受賞。2005年紫綬褒章、13年旭日小綬章。映画「男はつらいよ」のさくら役に代表される庶民派女優として、また歌手としても親しまれ、活躍している。

(3面に続く)